

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 紀南高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。</li> <li>自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。</li> <li>地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己肯定感・有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。</li> <li>育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い、学び続けることができる教職員集団。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>◎学校運営協議会は学校運営の主体として連携する相手との総括的な調整を行う。</p> <p>【同窓会】母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】卒業生が生き生きと生活し、成長する姿が感じられる高校。</p> <p>【地域の関係諸機関】さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくり。</p> <p>【PTA】生徒支援のためのPTA活動活性化。</p>		<p>◎学校運営協議会は連携する相手に対し、教育活動への積極的な参画を促す。</p> <p>【同窓会】生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】生徒に関しての情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくりを支援。</p> <p>【PTA】保護者との架け橋。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールとなった御浜町内の小中学校と連携し、合同研修会等を開くなど、より良い学校づくり、地域とあゆむ学校づくりを目指して協働してほしい。</li> <li>・情報発信については、さらなる工夫が必要。</li> <li>・遅刻数の多い生徒が増加している。基本的な生活習慣の指導を強化する必要がある。</li> <li>・進学を希望する生徒に合わせて、授業や補講などでより高度な内容を行う必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学んだことをしっかり身に付け、それにより学力が向上するとともに、「学んだことが役に立つ」「やればできる」という体験をとおして自己肯定感や自己有用感を高めることが必要である。そのため、教育活動のあらゆる場面で生徒の自己肯定感・自己有用感を引き出せるよう教職員が授業改善や教育課題に関する研修を積極的に行ってきた。これらのノウハウを継承・発展していくことが重要である。</li> <li>・安心して学校生活を送るために、生徒一人ひとりにあった方法で学校生活が支援できるように、生徒の様子等の情報を共有する機会を多く持つようにしてきた。また関係機関との連携も積極的に行うようにしている。これらのことを基盤として、より多様化する生徒の実情や環境に対応できるよう組織体制を整えていく必要がある。</li> </ul>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像をふまえた、生徒へのより丁寧な支援のために、教職員が丁寧な情報共有をおこなう必要がある。</li> <li>・生徒に寄り添い、一人ひとりにあった方法で生徒を支援することは本校の教育活動の根幹である。このことには大変な労力と時間が必要であり、丁寧になるほどに業務の負担は増していき、メンタル面を含めた教職員の健康面に大きな影響を及ぼす。教職員の健康を維持し、やりがいを持って教育活動に臨むことができるよう、業務を見直し、精選していくことが重要である。</li> <li>・一つ一つの活動を確実に充実させることが、中学生に選ばれる学校となることにつながる。教職員間と学校運営協議会の絆を強め、関係機関との対話・連携を密にし、学校運営の充実を図る必要がある。</li> </ul>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進めます。</li> <li>2. 生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。</li> <li>3. 生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。</li> <li>2. 積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。</li> <li>3. 質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。</li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した学校づくりを進めます。」に資する行動	<p>A 各家庭や地域と連携し、生徒の基本的な生活習慣等の確立に向けた様々な支援を行います。</p> <p>B 「紀南の風」などの学校通信を定期的に発行する。(年3回)</p> <p>C ブログ「今日の紀南高等学校」で学校の様子を伝える。(週1回以上)</p> <p>D 「図書館だより」を年11回発行し、広報活動に力を入れる</p> <p>E 対話集会等を通じて地域との関わりを深めるとともに、進路意識の向上につなげる。</p>	<p>A 臨時休校明けから各学年適宜個人面談を行い、必要に応じて家庭連絡するなど、コロナ禍で活動が制限される中、できる限りの連携を行った。</p> <p>B 紀南の風は発行回数を1回減らして実施した。</p> <p>C ホームページは刷新したものの、ブログについては、ソフトの不具合もあり、予定通り更新ができなかった。</p> <p>D 「図書館だより」は予定通り発行できた。</p> <p>E 対話集会は実施できなかった。</p>	

<p>②「生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。」に資する行動</p>	<p>A 授業のユニバーサルデザイン化(80%以上の教員の実施率)など、生徒の多様性に適応する授業の研究と推進をおこないます。</p> <p>B 科目選択に対する指導の充実を図るために質問、相談の機会を設ける。(説明会年2回、個別面談期間年2回)</p> <p>C 「主体的、対話的で深い学び」の実現にむけた授業力向上に取り組む。(通信発行年5回、教員研修2回)</p> <p>D 進路資料室や総合掲示板などを活用することで、情報収集能力を育成するとともに、自らのキャリアについて主体的に意思決定し行動する力を育成する。</p> <p>E 学校生活全体を通じて、職業観・勤労意欲を育み、進路希望に応じた情報の提供を行う。</p> <p>F 地域の保健所や消防署と協力し思春期教育講演会(各学年、年1回)やAED講習会(1年)を行う。</p> <p>G 図書部において、教科と連携を深めるとともに、進路関係の資料や郷土資料を充実させる</p>	<p>A すべての教員が授業のユニバーサルデザイン化を意識した授業をおこなった。</p> <p>B 説明会、個別面談いずれも実施でき、生徒の進路に応じた科目選択を支援できた。</p> <p>C 概ね実施できたがコロナ禍で研修会は急遽内容を変更して実施した。</p> <p>D 進路資料室や総合掲示板を活用し、主体的に情報を収集する生徒が増えた。</p> <p>E 各年次に応じた進路情報等を提供することで、職業観・勤労意欲の育成に努めた。</p> <p>F 思春期教育講演会は1年次は延期となった。またAED講習会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になった。</p> <p>G 教科等からのリクエストに応じて、適切に図書を充実させることができた。</p>
<p>③「生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます」に資する活動</p>	<p>A 全校生徒に対し進路指導主事による進路面談を実施し、生徒が安心して進路決定できる環境を整える。</p> <p>B 様々な課題をもつ生徒に対して、学校全体で効果的な指導・支援が行えるよう、教員間で積極的に情報を共有するよう努める。</p> <p>C 生徒が、いじめや虐待に関する相談しやすい体制を作る。学期に1回以上、いじめや学校生活に関するアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。</p> <p>D 関係機関等(中学校・児童相談所・教育相談担当・所轄警察署など)との連携を密にする。</p> <p>E 適切な SNS 利用に関する啓発活動を行う。(講演会など)</p>	<p>A 3年次生に対して丁寧な進路面談を行うことにより、多く生徒が進路希望を叶えることができた。また、1、2年次生に対しても進路指導部の教員が面談を行うことで、早期から進路意識を醸成することができた。</p> <p>B 担任団との情報共有は、朝の打合せ時やその他に時間において、週に1回以上行った。</p> <p>C アンケートについては、学期に1回実施した。</p> <p>D 生徒対応において、SC や SSW、児童相談所など関係機関との連携が功を奏したことが多々あった。 * SC=スクールカウンセラー * SSW=スクールソーシャルワーカー</p> <p>E 全学年で講演会を実施。SNSの適切な利用について啓発を行った。</p>

	<p>F 校内施設の利用マナー及びゴミの分別の意識向上のために、保健委員を中心に啓発活動を行う。</p> <p>G 人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。また、生徒への人権啓発を推進する。(人権LHRを各学期1回以上実施。人権サークルメンバー作成の人権教育通信「リスペクト」を学期1回発行)</p> <p>H 各学年の課題に応じて、個別面談を実施し(年間3回以上)、学校生活や進路等について、生徒が相談できる機会を確保する。また、普段から相談しやすい環境づくりを行う。</p>	<p>F 臨時休校の影響で十分には実施できなかった。</p> <p>G 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応の影響により人権サークルのメンバーがそろわることがなく、定期的なミーティングを行うことができなかった。そのため、人権サークルメンバー作成の人権教育通信「リスペクト」を学期1回発行することができなかった。3学期中に教員により、人権サークルのメンバーの募集を兼ねて、1回発行を予定。</p> <p>H 臨時休校の影響で予定通りではなかったが、すべて実施できた。</p>
--	--	---

### 改善課題

- ・円滑に通信の発行やブログの更新ができるように、掲載内容や発行回数(更新回数)を精査する必要がある。
- ・主体的に進路決定できた生徒がいる一方、自らの進路に対して当事者意識を持って向き合っていない生徒も少なからず存在している。
- ・内的なキャリア教育を引き続き推進していくことは勿論、外的キャリアの観点から「2年次の秋までに就職か進学かを決める」という校風を、学校全体で作っていきたい。
- ・近年、人権学習の内容は大きく変化していないが、3学年通して見直しが必要である。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>①「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。」に資する活動</p>	<p>A ホームページや「紀南の風」などでの情報内容の充実を図り、効果的な広報活動をめざす。</p> <p>B 図書館の地域開放を継続する。また、中学生の職場体験学習の受け入れを継続する。</p> <p>C 「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」などの会議において、本校の人権LHRを公開し、その内容について交流、協議を実施する。</p> <p>D 各家庭との情報共有を密にし、連携して生徒の支援を行う。</p>	<p>A コロナ禍の影響もあり、継続予定の通信の発行は行えなかった。</p> <p>B コロナ禍の影響か、利用者は減ってしまったが、地域開放は引き続き継続する。中学生の職場体験学習は本年度はなかった。</p> <p>C 「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」において、本校の人権LHRを公開し、意見交流、協議を実施した。活発な協議になり、有意義な機会となった。</p> <p>D 必要に応じて適切に連携できた。</p>	

<p>②「積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。」に資する活動</p>	<p>A 教員の授業力向上にむけた取組の機会を設け、推進する。(通信発行年5回)</p> <p>B OJT研修の観点から、学年団とともに進路指導業務を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を向上する。</p> <p>C 特別支援教育に関する研修会を年2回行う。</p> <p>D 教職員への人権啓発を促進する。(研修会を年2回以上実施。教職員向け人権教育通信「勁草」を学期1回発行)</p> <p>E 人権教育担当者会議を計画的かつ系統的に行う。(年6回以上実施)</p>	<p>A 様々な教育活動への円滑かつ支援は行なうことができたが、通信の発行はできなかった。</p> <p>B 担任とともに進路業務を遂行することで、特に3学年所属教員の進路指導に関する資質・能力が大きく向上した。</p> <p>C 9月、1月に実施。いずれも充実した研修であった。</p> <p>D いずれも予定通り実施し、教職員への人権意識の向上につながった。</p> <p>E 計画通り行うことができた。</p>
<p>③「質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。」に資する活動</p>	<p>A 校務支援システム入力、成績処理や定期考査業務など、様々な教育活動への円滑かつ適切な支援を行う。</p> <p>B 共有フォルダ等を活用することで、生徒情報の共有を徹底するとともに、効率的に業務を行い勤務時間の縮減に努める。</p> <p>C 年間計画全体を見直し、行事等の精選・簡素化を進める。</p> <p>D 教職員が働きやすい環境づくりの考え方を踏まえ、以下の成果指標・活動指標を目標とし、学校における働き方改革を推進します。</p> <p>〈成果指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数 20日</li> </ul> <p>〈活動指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100%</li> <li>・放課後に開催し 60分以内に終了した会議の割合 95%</li> </ul>	<p>A 業務の効率化を推進することで、進路指導室所属教員の勤務時間を大幅に縮減することができた。</p> <p>B 共有フォルダを活用し、生徒情報の共有により、効率的かつ円滑な支援を行うことができた。</p> <p>C 行事等の精選・簡素化については、コロナ禍で様々な行事等が中止になったことで主体的にはできなかったが、このことにより、今後より精選・簡素化を進めやすくなったと感じる。</p> <p>D (1月末現在)</p> <p>〈成果指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間15.3時間</li> <li>・月45時間超延べ15人</li> <li>・年360時間超3人</li> <li>・1人当たり年間休暇取得日数21.9日</li> </ul> <p>〈活動指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校割合88%</li> <li>・部活動の休養日設定100%達成。</li> <li>・60分以内の会議割合100%達成</li> </ul>

## 改善課題

- ・大学入学共通テストに関して、教員に対し情報提供を行い、教員の資質・能力の向上を目指したい。
- ・在校生数や時勢に鑑み、学校行事の規模等を検討する必要がある。
- ・特別支援が必要な生徒の、就労支援に関する校内体制の検討が必要である。
- ・全体的に、働き方改革で示されていることを意識して、計画的に業務に取り組んでいただいた半面、人員数の関係で、時期によっては非常に多くの負担が一部の教員にかかってしまった。原因となる業務について、負担に見合う効果が得られているかなどの観点で再度検討し、必要に応じてなくす等していかななくてはならない。
- ・定時退校日について、周知が徹底できなかった。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・学びに向かう姿勢を支援する教育ボランティアを効率的に募集する方法を検討する必要がある。</li><li>・これからの高校教育の在り方について、学校運営協議会委員と教員が対話し、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを考える場の設定が必要である。</li><li>・地域への愛着を育む取組を紀南高校はかなり取り組んでいる。これをさらに「この地域をよくするために何ができるのか」ということを生徒自身が主体的に、自分事として考えられるような学びを考える必要がある。</li><li>・マネジメントシートの在り方について、考える必要がある。</li></ul>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、行事計画等が大きく変更することを余儀なくされたり、ネットを活用したオンライン授業や会議の実施といったこれまで対応してこなかったことへの対応があったりした中、職員が団結し、適切に対応することができた。</p> <p>こうしたことを通じて、これまで前年踏襲でやってきたことの中に、今後不要になるものやこれから新たにバージョンアップしていく必要があるものとのある程度の見通しが持てたように感じる。育みたい生徒像と照らし合わせ、精選を行っていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>教育活動についての改善策同様、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う様々な取組の中止や規模の縮小は残念に感じる一方で、必要性やバージョンアップについて考え直すきっかけになったように感じる。</p> <p>生徒、保護者、地域、学校それぞれがWIN-WINの関係になるよう、互いに意見を出し合いながら、学校運営について考えていく必要がある。そのため、できる限り意見をいただく機会を効果的に設定していきたい。</p>